

思いっきり遊んだ出張プレーパーク

プレーパークとは、「こどもがやりたい遊びを思いやりできる場」です。大人から見たら危なっかしいことや、要領が悪いように思えることも、プレーリーダーに見守られながら、自分なりに挑戦し、成長していけるあそび場です。豊島区内では、池袋本町に常設のプレーパークがありますが、各地に出張して開催もしています。

公園検討会からの熱心な呼びかけもあり、豊島区子ども課の主催で、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークのご協力をいただき、平成29年11月5日(日)に雑司が谷・南池袋地区でははじめての出張プレーパークが開催されました。場所は解体工事目前の高田小学校跡地の校庭。段ボールで思い思いの隠れ家や迷路を作ったり、校庭にのびのびと絵をかくたり、木工に挑戦したり、200人もの地域の方々それぞれの楽しい時を過ごしました。

公園検討会から発展し、NPO法人となる「雑司が谷ひろばくらぶ」では、これからも出張プレーパークを継続して開催したいと考えています。工事に入る高田小跡地は使えなくなるので、地区内で利用できる場所を探しています。



緑のこみちが彼岸花の道に

雑司ヶ谷霊園の廻りの万年塀が生垣になって16年。この間、緑のこみちの会では毎月清掃活動と道端に花を植える活動を行ってきました。これをさらに充実させ、雑司が谷らしい景観にしたいということで、雑司が谷未来遺産推進協議会の援助をいただき、彼岸花の球根を1500個植えました。9月のお彼岸には赤い花がこみちを彩り、鮮やかな景色となりました。来年度はさらに範囲を広げて、未来の雑司が谷の担い手、南池袋小学校の児童と一緒に球根を植えていく予定です。



まちづくりニュース
2018・3
通算83号

ぞうしがや

<http://zoshigaya.org>

●企画/発行
雑司が谷・南池袋
まちづくりの会
●事務局・連絡先
豊島区地域まちづくり課
事業第1グループ
03-3981-0489

募集中 まちづくり用地

居住環境
総合整備事業

災害危険度を軽減するために

豊島区では、雑司が谷一丁目・南池袋四丁目を災害に強いまちにするために居住環境総合整備事業を行っています。

雑司が谷・南池袋地区は災害危険度が高く、最近発表された東京都の地域危険度測定調査の総合危険度では、雑司が谷二丁目は東京都の5177町丁中207位の危険度となっています。首都直下型地震がいつ起きてもおかしくないと言われていいる中、その安全性を高めることが緊急の課題となっています。

豊島区では、地区内の燃えやすい建物を減らすために不燃化特区の指定を行っています。それと共に地区の安全性を高めるために、高田小学校跡地を公園に整備する事業にとりかかりました。また、地区内の道路の整備を行うために6つの重点道路を定め、その中



も優先整備路線3路線の拡幅整備事業に着手しました。その他、高田小学校跡地以外でも小公園やまちかど広場などを整備したいと考えています。



凡例
重点道路 優先整備路線
整備方法検討路線
防災生活道路

まちづくりのための用地

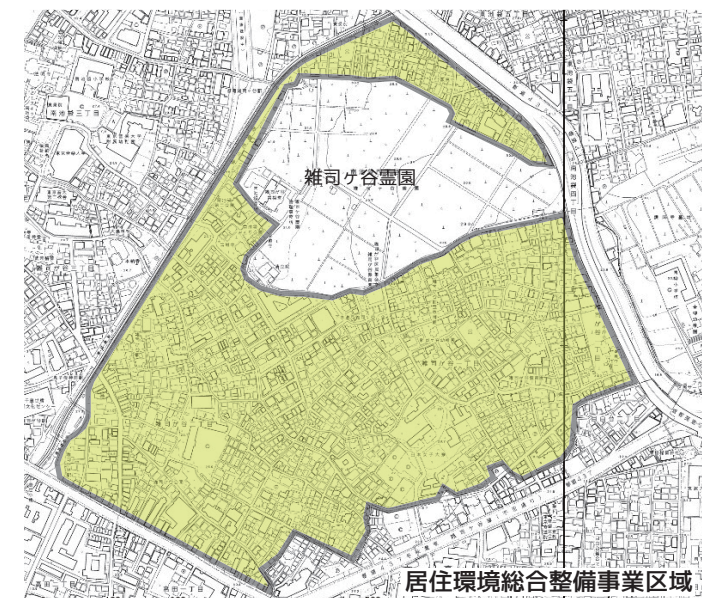
道路や公園を整備する場合、敷地の所有者にご協力をいただき、土地を区が取得して事業を進めます。すでに豊島区では道路整備について、個別に権利者の皆様のご意向を伺っています。話し合いの過程では、代替地があれば移転してもよいというご意見の方もいらっしゃいます。しかし、現在のところ、区では地区内にまちづくり用地を持っていません。

区では、地区内で土地をお譲りいただける方を募集しています。お譲りいただいた土地は、まちづくり用地として道路整備などの代替地や小公園、まちかど広場として整備することができます。

まずはご相談ください

区がまちづくり用地を募集しているのは、下図の事業区域内の土地です。区に売却していただける場合は、税制の優遇措置などがあります。もし、土地の売却をお考えの方がいらっしゃいましたら、まずは区にご相談ください。

お問い合わせ：
豊島区都市整備部地域まちづくり課
電話 03-3981-0489



動き始めた公園工事

高田小学校跡地

2つの説明会

高田小学校跡地の公園工事がいよいよはじまりました。最初に行われるのは校舎の解体工事です。



豊島区では平成29年10月5日に公園計画説明会を開催し、地域の皆様に計画の概要をお知らせしました。

その後、入札によって解体工事業者が決定し、11月20日には工事説明会が行われました。

工事は11月末から始まりました。最初は近隣の家屋調査です。約140棟が対象となりました。実際に現場で工事が始まったのは平成30年1月中旬からです。

工事用の道路づくり

高田小学校跡地の工事で大きな障害となっていたのは周辺道路が狭いことです。解体工事にあたっては解体重機の搬入や解体物の搬出に課題がありました。

豊島区が学校周辺の道路を調査したところ、環5の1から鬼子母神表参道を経て雑司が谷公園の南側の道に入る道しか利用できないことがわかりました。そこで、雑司が谷公園内に仮設道路をつくり学校跡地に入る道を工事用道路とすることにしました。そのために支障になる電柱の移設も行っています。校舎の解体で出てくるコンクリートガラなどは、雑司が谷公園の仮設道路を通り、南東側に曲がり目白通りに抜ける道を通ります。

工事には万全の注意を

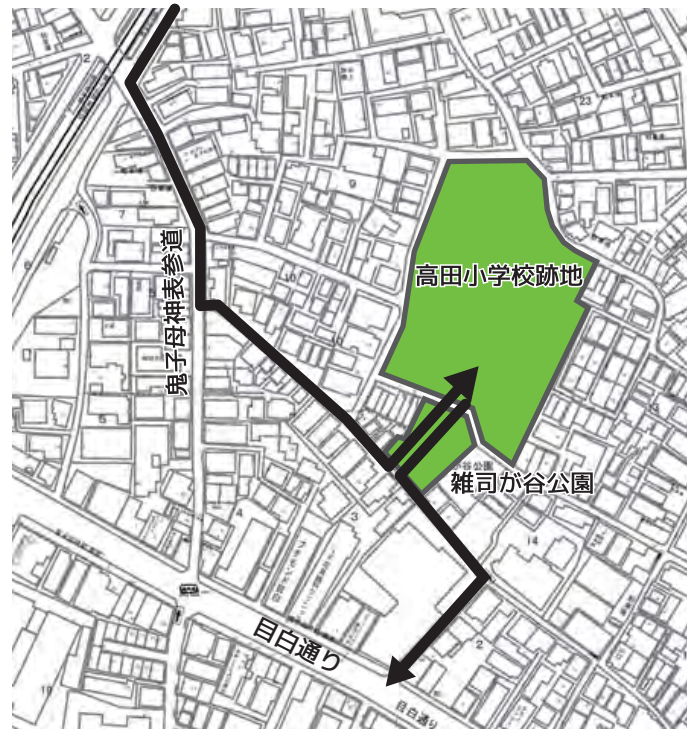
解体工事は狭い道を通って行わざるをえません。そこで沿道の交通安全には十分な注意を払って行われます。地区内の各交差点には警備員を配置し、特に雑司

が谷公園の南側の道を車両が通るときには、警備員が車両を先導するように通行することにしています。

解体工事は平成30年12月までを予定しています。1年にわたって地域の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

解体工事の内容

校舎の解体工事は、校舎全体を防音パネルで覆って行い、低騒音型の重機を使い、できるだけ近隣の皆様への影響が少なくなるように配慮して行います。校舎の解体で発生するコンクリートガラなどは約3000立方メートルになると想定しています。そのうちの1/3程度は敷地内の路盤などに使い、場外に搬出するガラは減らすように工夫しています。それによって通行するダンプカーの台数も減らすことができます。



まちづくり見学会

千住仲町

まちづくりの会では、先進的なまちづくりを行っている地区を訪ねる勉強会を行っています。平成29年11月23日に訪問したのは、足立区の千住仲町地区です。北千住駅の南側、約15.7haの区域で、東京都の総合危険度ではランク4になっている地区です。平成20年度から密集市街地整備事業が行われています。

千住仲町のまちづくりが目指しているのは次の3つです。

- 防災生活道路の整備
- 身近な公園・プチテラス等の整備
- 老朽住宅等の建替え支援

地区を歩いていて目に付くのは道路の整備です。防災生活道路はおおむね200~250mの間隔で6.0m又は5.0mの道路整備を進めています。右の写真の上2つが道路整備の様子です。できるところから拡幅をしているので道路がジグザクになっています。幅員も通常なら6.0mとするところを、5.0m+壁面後退で実質的に6.0m確保できるようにするなど、非常に柔軟に対応していることがわかりました。

移転などにより土地の買い上げも積極的に行っており、小公園が住宅地の密度を減らすように整備されていることが印象的でした。

